

FRISBEE DOG



KY DOG SPORT



congratulations

JFA

日本フリスビードッグ協会会報

2004 DECEMBER

【ホームページアドレス】 <http://www.frisbeedog.co.jp/>

一年間お世話になりました協賛企業各社一覧

ネスレ ピュリナ ペットケア株式会社
株式会社ナナオ
滋賀丸石自転車工業株式会社
日本コダック株式会社
有限会社拓志

JAPAN FINAL 2004 in MIE

協賛企業各社一覧

後 援 上野市
上野市教育委員会
芭蕉翁誕生360年記念事業推進委員会
財団法人上野市文化都市協会
社団法人伊賀上野観光協会
Discovering The World

協 賛 ネスレ ピュリナ ペットケア株式会社
株式会社ナナオ
滋賀丸石自転車工業株式会社
日本コダック株式会社
コニカ ミノルタNC株式会社
有限会社拓志
医療法人長福会 ふくもと内科クリニック
有限会社篠原染工

REPORT

今回で11回目を数えた、JFA各カテゴリーにおける日本一決定戦であるピュリナスカイドッグチャンピオンシップJFAジャパンファイナル2004は、忍者の里、芭蕉翁の誕生で有名な三重県上野市にある、芝がとても綺麗に整備された「上野市運動公園野球場」で行われました。芭蕉翁が誕生し360年ということで、記念事業の一環としての開催となったジャパンファイナル2004は、三重県上野市からの手厚いバックアップを受け3日間開催で行われました。



ジャパンファイナル開幕10月9日(土)は、台風22号の上陸を受け、気象状況が心配された中で行われました。前日からの雨が降り止まない朝を迎え、昼に台風が一番近づくと予報されながらも、風はそれほど強くなく三重県に台風上陸ながらも、上野市だけに警報は出されず無事開会式を迎えることが出来ました。

大会第一日に行われる、ユースオープンの部・小型犬の部・シニアドッグの部の全国からのノミネート選手の選手入場から始まり、メダルの授与が行われ、引き続き開会式では、JFA代表山田仁の開会挨拶、メインオフィシャルスポンサーのネスレピュリナペットケア株式会社プロチャンネル部ルパート・サットン様からの来賓挨拶、そして上野市長今岡睦之様からの来賓挨拶を頂き、JFA統括本部長上田隆の開会宣言で第11回JFAジャパンファイナルが開幕しました。



ネスレピュリナペットケア株式会社
プロチャンネル部 ルパート・サットン様



上野市長 今岡睦之様

Aコート・Bコートでは、それぞれユースの部・シニアドッグの部から始まり、雨も弱まりつつある状況の中、日本一を決める熱い戦いが始まりました。ユースの部は全129チームのノミネートから個人の部の日本一、そして地域で分けられたエリアでの団体の部の日本一を決定します。予選ラウンドから全国からのトップチームが集まったこともあり、予想通り高ポイントの展開の中で決勝ラウンドへ残った10チームは、北海道2チーム・千葉県・群馬県・静岡県・新潟県・大阪府・兵庫県・広島県・佐賀県それぞれ1チームとなりました。このチームの中でユースの部個人戦日本一を見事勝ち取ったのは、九州沖縄エリアからのノミネートを受けた上野平寛&LEON（ボーダーコリー）チームでした。優勝ポイントは96ポイント。そして、準優勝には静岡からのノミネート後藤智弘&ビート（ラブラドル）チームで93ポイント。3位には千葉光敏&マジック（ボーダーコリー）チーム90ポイントと僅差での順位決定でした。

エリアでのノミネートチームの平均ポイントで決定する団体の部日本一には、決勝に2チームが進んだ北海道チームが平均スコア51ポイントで2位と頭ひとつ離して優勝。ユースオープン団体の部の栄えある優勝旗を持ち帰ることとなりました。準優勝が中国Ⅱ（広島県、山口県）チーム。第3位が中国Ⅰ（岡山県、鳥取県）チーム。以上の結果となりました。



ユースオープン個人戦の部



左：準優勝 後藤智弘&ビート（静岡県/ラブラドル）
 中：優勝 上野平寛&LEON（佐賀県/ボーダーコリー）
 右：第3位 千葉光敏&マジック（北海道/ボーダーコリー）

ユースオープン団体戦の部



左：準優勝 中国Ⅱ（広島県・山口県）チーム
 中：優勝 北海道チーム
 右：第3位 中国Ⅰ（岡山県・鳥取県）チーム



7歳以上の犬たちと共にチームを組んで予選を勝ち抜きノミネートされて日本一を争うシニアドッグの部では、まだまだ現役の犬たちに負けずと各チーム、ナイスファイトを見せてくれました。その中で投げてのパーフェクトなスローイングとミスのないキャッチングで須藤充&チット（ミックス）チームがシニアドッグの部日本一に輝きました。準優勝には池元英彦&ブルース（ゴールデン）チーム。3位には福原芳郎&リリー（ボーダーコリー）チームと決定しました。

小型犬の部では、全国からノミネートを受けた25チームによる日本一をかけた戦い。ジャパンファイナルでは小型犬の部においてもパーフェクトなプレーを要求されるハイゲームな展開となりました。その中で完璧なゲーム展開を見せ、決勝ラウンドにおいては40ポイントオーバーを見せ見事優勝したのは、昨年小型犬チャンピオンとなったウエルシュ・コーギー・カーディガンのコニーが、今年は投げ手を奥さんに変えての二連覇。梅田美智子&コニーチームが日本一となりました。準優勝には小川悦郎&CREA（ジャックラッセル）チーム。3位には吉岡達浩&ダーズリン（ウエルシュコーギー）チームと決定しました



シニアドッグの部



左：準優勝 池元英彦&ブルース（千葉県/ゴールデン）
 中：優勝 須藤充&チット（新潟県/ミックス）
 右：第3位 福原芳郎&リリー（兵庫県/ボーダーコリー）

小型犬の部



左：準優勝 小川悦郎&CREA（福岡県/ジャックラッセル）
 中：優勝 梅田美智子&コニー（大阪府/ウエルシュコーギーC）
 右：第3位 吉岡達浩&ダーズリン（岡山県/ウエルシュコーギーP）



10月10日(日)第二日目、昨日までの台風は過ぎ去り晴れ間を見せて選手入場の時を迎えました。二日目に日本一を決めるカテゴリーは、レディースチャンピオンシップ・ロングディスタンスチャンピオンシップ・こどもの部の三部門。この他にジャパンファイナル記念として芭蕉翁誕生360年記念大会が行われました。ロングディスタンスチャンピオンシップでは、あいにくながらも風は微風の状況の中、女子の部から始まり、男子の部と行われました。女子の部での優勝は横山まゆみ&アクセル(ボーダーコリー)チームが53.22メートル。男子の部の優勝は寺西弘行&Rachel(Aシェパード)チームが67.17メートル。日本記録には及ばなかったものの見事チャンピオンの座を決めました。女子の部の準優勝は、堤三恵子&ラック(ボーダーコリー)チーム44.24メートル。第3位は松尾直美&GLAY(ボーダーコリー)チーム43.85メートルでした。男子の部では、準優勝は杉本繁郎&ミキちゃん(ラブラドル)チーム65.52メートル。第3位には杉尾祐児&CoCo(ラブラドル)チーム62.81メートルでした。



ロングディスタンスチャンピオンシップ男子の部



左：準優勝 杉本繁郎&ミキちゃん(北海道/ラブラドル)
 中：優勝 寺西弘行&Rachel(大阪府/Aシェパード)
 右：第3位 杉尾祐児&CoCo(兵庫県/ブラドル)

ロングディスタンスチャンピオンシップ女子の部



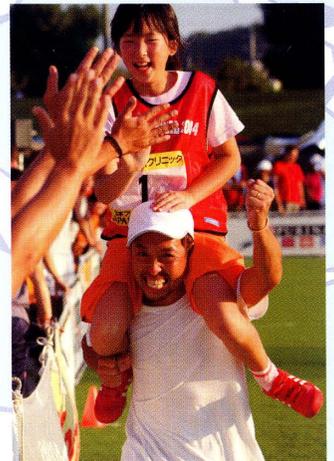
左：準優勝 堤三恵子&ラック(佐賀県/ボーダーコリー)
 中：優勝 横山まゆみ&アクセル(高知県/ボーダーコリー)
 右：第3位 松尾直美&GLAY(長崎県/ボーダーコリー)



レディースチャンピオンシップでは、年々レベルアップする中、トップチームが集結したジャパンファイナルにおいてもそのレベルの高さが証明される戦いになりました。その中で優勝を飾り日本一を決めたのは、年間の予選で9試合連続ファイナルラウンド進出の実力を持ち、レディースチャンピオンシップでもトータルスコア90ポイントを出した、北海道の青柳愛佳&スヌーピー（ボーダーコリー）チームがレディースチャンピオンの座に輝きました。2位には若年齢の福本紗良&フィユ（ボーダーコリー）チーム。そして3位に親子で入賞となった福本聡子&ミニョン（ボーダーコリー）チームとなりました。4位には唯一ラブラドルでファイナルラウンドにトップで上った杉

本恵子&ミキちゃんチーム。5位には友広浩子&ムーン（ボーダーコリー）チーム。入賞チームのうち3チームが北海道という北海道勢の強豪さを見せつけた結果となりました。

開会式選手入場では運動会のような可愛さと元気さを見せたこどもの部では、低学年以下の部と高学年の部のそれぞれの日本一を決定しました。しかし、子供と言ってもスローイングは大人を負かすばかりの絶妙なスローイングを見せ低学年以下の部・高学年の部の優勝を飾ったチームの優勝スコアは100ポイントオーバーと観戦する人たちの言葉を失うほどの日本一争いとなりました。低学年以下の部では、ファイナルラウンドで、決勝進出規定で同一犬・同一チームでの重複進出は認められないため残念ながら決勝ラウンドへは進めなかった堤ほの花&ラック（ボーダーコリー）チーム。お姉ちゃんのみで頑張るといわんばかりにトータル106ポイントを出して優勝したのは、堤英登&ラックチーム。堂々の日本一を決めました。準優勝には三浦杏奈&チェリー（Gシェパード）チーム。3位には空野渚&さいら（ラブラドル）チームでした。高学年の部では、トータルポイント114ポイント橋間秀果&J（ウィペット）チーム。準優勝には長田憲幸&SHERRY（ボーダーコリー）チーム。3位には竹山真宮子&リアル（ボーダーコリー）チームでした。こどもの部でも優勝のウィングランが行われ、公式コート1周170メートルを一生懸命走る堤英登君。そして、お父さんに肩車をされウィングランをした橋間秀果ちゃんがとても印象に残るファイナル第2日目となりました。



こども大会高学年の部



左：準優勝 長田憲幸&SHERRY（兵庫県/ボーダーコリー）
中：優勝 橋間秀果&J（東京都/ウィペット）
右：第3位 竹山真宮子&リアル（兵庫県/ブラドル）

こども大会低学年の部



左：準優勝 三浦杏奈&チェリー（滋賀県/Gシェパード）
中：優勝 堤英登&ラック（佐賀県/ボーダーコリー）
右：第3位 空野渚&さいら（兵庫県/ラブラドル）



翌日のグランドチャンピオンシップの肩慣らしにとエントリーをしてくるチームが多かった芭蕉翁誕生360年記念大会は、120チームがエントリーしてのマンモス大会となりました。予選1・2ラウンドはオープンコートということもあって、各選手思いっきりのプレーが高ポイントを生み、決勝ラウンドへ進出チームは昨年度のグランドチャンピオンシップでも顔をあらわした面々が登場しました。優勝は、昨年グランドチャンピオンシップ2位の新倉謙吾&音々（ボーダーコリー）チームがトータル109ポイント。2位には2003・2004年連続シリーズチャンピオンの座を勝ち取った井上弘之&ゆふ（ボーダーコリー）チーム。3位には2年連続公式ランキングベスト10入りを果たした友田裕輔&リラ（ラブラドル）チームでした。

レディースチャンピオンシップ



左：第4位 杉本恵子&ミキちゃん（北海道/ブラドル）
 左2：第3位 福本聡子&ミニョン（茨城県/ボーダーコリー）
 中：優勝 青柳愛佳&スヌーピー（北海道/ボーダーコリー）
 右2：準優勝 福本紗良&フィユ（茨城県/ボーダーコリー）
 右：第5位 友広浩子&ムーン（北海道/ボーダーコリー）

芭蕉翁誕生360年記念大会



左：2位 井上弘之&ゆふ（東京都/ボーダーコリー）
 中：優勝 新倉謙吾&音々（北海道/ボーダーコリー）
 右：3位 友田裕輔&リラ（北海道/ブラドル）

ジャパンファイナル二日目の夜は、恒例となった2004年度表彰式典とウェルカムパーティーが行われました。多くの参加者を集めた表彰式典においては、2004年度予選会各部門において好成績を収めたチームの表彰や、JFA最高カテゴリーである公式シリーズ選手権全25戦の優勝チームの表彰。他、特別賞・MIP・新人賞などの表彰が行われました。そして、会場を変え引き続き行われたウェルカムパーティーでは、乾杯の音頭と共に満席状態の会場で賑やかなパーティーが始まり、年に一度しか顔を合わせないチーム同士や日頃の大会でライバルとして戦っている選手たちが、料理と飲み物を口にしながら楽しいひと時を過ごしました。パーティーも中盤を過ぎたころには、仮装をした選手が現れ会場をいっそう沸かせる場面もあり、ファイナル最終日の前夜祭を盛り上げていました。



10月11日（月祝）第三日目、天候は晴れ。緊迫した空気を漂わせる最終日。JFA最高カテゴリーであるグランドチャンピオンシップ、そしてフリーライトチャンピオンシップの日本一決定戦が行われます。選手入場が行われ開会式を迎え、アメリカ・日本の国歌斉唱で選手のモードは日本一への戦いの始まりとなり各選手緊張を隠せない状況の中、JFA代表山田仁の挨拶から、年間スポンサーをしてくださっている株式会社ナナオ五十嵐剛様、そして上野市長今岡睦之様からの激励のお言葉の後、最終日の開幕を迎えました。



株式会社ナナオ 五十嵐剛様



上野市長 今岡睦之様

フリーライトチャンピオンシップでは、時折吹く風にも影響されず、トップチームの貫禄を見せ的確にトス・スローをする各チーム。ちょっとしたタイミングとミスキャッチでの差が勝敗の決め手となりました。決勝ラウンドでも各選手緊張したプレーとなりましたが、その中で前年度チャンピオン早川利幸&BEAT（ボーダーコリー）チームが、より完璧なプレーを見せて優勝、二年連続の日本チャンピオンとなりました。準優勝には石田義弘&ラストイー（ボーダーコリー）チーム。3位には林康男&愛鈴（ラブラドル）チーム。僅かに0.5ポイント差ずつの争いの結果となりました。



JFA最高カテゴリーグランドチャンピオンシップにノミネートされた58チームの戦いは、パーフェクトプレーしか勝つ道は与えられませんでした。第1ラウンドトップは43ポイントと、1ラウンド最高ポイント歴代2位の記録を頭に、30ポイント以上をマークしたチームが2ラウンド目に決勝進出を向けポイント伸ばす状況となりました。決勝ラウンド進出ボーダーラインは64ポイント。トップは72ポイント。それに続き71ポイントとポイント差は僅か。決勝ラウンドでも1投のミスが日本一を決める鍵となりました。結果、すべてのラウンドでパーフェクトプレーを見

せた森稔之&MISIA（ボーダーコリー）チームが、トータルポイント103ポイントで栄えある日本一の座を獲得。準優勝には野呂瀬さゆり&PASSER（ボーダーコリー）チーム。3位には3・4位決定戦で勝ちとった木村均&グラーチア（ボーダーコリー）チーム。4位には田口佳奈&SENN（ボーダーコリー）チーム。5位には小寺賢&LAHI（ボーダーコリー）チーム。6位には小井正&セベリアーノ（ボーダーコリー）チーム。7位には団野悦郎&Hitomi（ラブラドル）チームという結果でした。表彰式では、表彰チームへ入賞トロフィー・表彰状の他、スポンサー様からの副賞やプレゼンターに上野市助役権蛇英明様を迎え、上野市特産物の副賞が入賞チームへ手渡されました。

グランドチャンピオンシップ



左：第6位 小井正&セベリアーノ（大阪府/ボーダーコリー）
 左2：第4位 田口佳奈&SENN（岡山県/ボーダーコリー）
 左3：準優勝 野呂瀬さゆり&PASSER（神奈川県/ボーダーコリー）
 中：優勝 森稔之&MISIA（神奈川県/ボーダーコリー）
 右3：第3位 木村均&グラーチア（熊本県/ボーダーコリー）
 右2：第5位 小寺賢&LAHI（東京都/ボーダーコリー）
 右：第7位 団野悦郎&Hitomi（大阪府/ラブラドル）

フリーライトチャンピオンシップ



左2：第4位 安田信二&ハーツ（鹿児島県/ボーダーコリー）
 左3：準優勝 石田義弘&ラスティ（神奈川県/ボーダーコリー）
 中：優勝 早川利幸&BEAT（千葉県/ボーダーコリー）
 右2：第3位 林康男&愛鈴（静岡県/ラブラドル）
 右：第5位 松尾至&NOVA（長崎県/ボーダーコリー）

3日間にわたるピュリナスカイドッグチャンピオンシップジャパンファイナル2004の閉会式を迎え、JFA代表山田仁の閉会の辞の後、メインオフィシャルスポンサーのピュリナペットケア株式会社林様のハイタッチ一本締めで3日間の熱い戦いに幕を閉めました。



PURINA SKYDOG CHAMPIONSHIPS JAPAN FINAL 2004 in MIE

大会成績一覧

◆グランドチャンピオンシップ(2004年10月11日)

順位	氏名	出身地	犬名	犬種	獲得得点
優勝	森 稔之	神奈川県	MISIA	ボーダーコリー	103
準優勝	野呂瀬 さゆり	神奈川県	PASSER	ボーダーコリー	100
3位	木村 均	熊本県	グラーチア	ボーダーコリー	95(37)
4位	田口 佳奈	岡山県	SENNA	ボーダーコリー	95(33)
5位	小寺 賢	東京都	LAH!	ボーダーコリー	91
6位	小井 正	大阪府	セベリアーノ	ボーダーコリー	88
7位	団野 悦郎	大阪府	Hitomi	ラブラドル	83
8位	小寺 賢	東京都	LEE	ボーダーコリー	63(35)
9位	間 禎永	福岡県	Tachyon	ボーダーコリー	63(34)
10位	菊地 長生	茨城県	メロディー	ゴールデン	62(34)
11位	小山 隆	東京都	DERRINGER	グローネンダール	62(32)
12位	山口 裕二	神奈川県	さくら	ラブラドル	60(32)
13位	三本 華余子	東京都	Kaiser	ボーダーコリー	60(30)
14位	松尾 至	長崎県	NOVA	ボーダーコリー	60(24)
15位	青柳 洋平	北海道	スヌーピー	ボーダーコリー	58(34)
16位	水越 徹	東京都	ぷりちゃん	グローネンダール	58(31)
17位	水越 徹	東京都	せれ	ボーダーコリー	58(27)
18位	西山 哲也	兵庫県	ハンター	ボーダーコリー	56(29)
19位	野呂瀬 さゆり	神奈川県	PLIER	ボーダーコリー	56(25)
20位	岡野 太郎	茨城県	Adel	ボーダーコリー	55(26)
21位	青柳 洋平	北海道	ライフ	NZハンタウエイ	55(24)
22位	間 禎永	福岡県	Grass	ボーダーコリー	54
23位	三本 欽麗	東京都	Kaiser・Hose	ボーダーコリー	52
24位	正木 成人	奈良県	さくら	フラットコートテッド	51(31)
25位	井上 弘之	東京都	ゆふ	ボーダーコリー	51(26)
26位	田中 安夫	群馬県	エアリアル	ラブラドル	50(33)
27位	野呂瀬 郁夫	神奈川県	PASSER	ボーダーコリー	50(26)
28位	山本 栄治	兵庫県	ラッキー	ダルメシアン	49(33)
29位	福本 義裕	茨城県	ミニヨン	ボーダーコリー	49(32)
30位	山口 裕二	神奈川県	こうめ	ラブラドル	49(30)(8)
31位	丸島 康裕	千葉県	JENNIFER	ボーダーコリー	49(30)(6)
32位	山口 久善	岡山県	LUKE	ボーダーコリー	49(21)
33位	山本 孝治	兵庫県	ナナ	ウィベット	48
34位	田中 安夫	群馬県	エアウイング	ラブラドル	47(34)
35位	福本 義裕	茨城県	フィーユ	ボーダーコリー	47(24)
36位	稲葉 秀昭	滋賀県	ウィンク	ボーダーコリー	47(19)
37位	笠原 崇司	群馬県	銀河	ボーダーコリー	47(11)
38位	村井 淳二	岐阜県	天気	ラブラドル	46(26)
39位	安田 伸之	神奈川県	ガーフィー	ボーダーコリー	46(23)
40位	田淵 義博	兵庫県	SOPHIA	ボーダーコリー	45
41位	新倉 謙吾	北海道	希々	ボーダーコリー	44(26)
42位	東 敏昭	東京都	マーク	ボーダーコリー	44(22)
43位	五十嵐 誠	茨城県	チョッパー	ボーダーコリー	43(30)
44位	三本 欽麗	東京都	Raystar・Hose	ボーダーコリー	43(25)
45位	大谷 光浩	東京都	いであ	ボーダーコリー	42(26)
46位	堀口 勉	茨城県	アイチャン	ボーダーコリー	42(10)
47位	仲林 謙治	三重県	ロブロス	ドーベルマン	40(24)
48位	新倉 謙吾	北海道	音々	ボーダーコリー	40(8)
49位	小峰 泉	埼玉県	けちゃっぴ	ボーダーコリー	38
50位	神原 吉隆	愛知県	ファン・ディアス	ボーダーコリー	35
51位	眞田 知博	千葉県	Alliecha	ミックス	30
52位	大沢 弘和	北海道	サム	ボーダーコリー	29
53位	宮迫 裕二	京都府	アイビー	ボーダーコリー	28
54位	友田 裕輔	奈良県	リラ	ラブラドル	26
55位	加部 真巳	大阪府	Mai	ラブラドル	21
56位	今村 英喜	熊本県	WEED	ウィベット	16
57位	石田 牧彦	栃木県	サラ	ボーダーコリー	10
58位	木村 哲也	熊本県	ちゃこ	ラブラドル	-

◆フリーフライトチャンピオンシップ(2004年10月11日)

順位	氏名	出身地	犬名	犬種	獲得得点
優勝	早川 利幸	千葉県	BEAT	ボーダーコリー	86.5
準優勝	石田 義弘	神奈川県	ラストイー	ボーダーコリー	86.0
3位	林 康男	静岡県	愛鈴	ラブラドル	85.5
4位	安田 信二	鹿児島県	ハーツ	ボーダーコリー	83.5
5位	松尾 至	長崎県	NOVA	ボーダーコリー	81.0
6位	千葉 光敏	北海道	マジック	ボーダーコリー	78.5
7位	高坂 健一	神奈川県	Mousse	ラブラドル	76.0
8位	田淵 義博	兵庫県	SOPHIA	ボーダーコリー	42.0
9位	堤 明英	佐賀県	ラック	ボーダーコリー	41.0
10位	難波 輝一	神奈川県	Maggy	ボーダーコリー	40.0 (33.0)
11位	斉藤 昇	山口県	さくら	ボーダーコリー	40.0 (30.0)
12位	原 英雄	滋賀県	パトラ	ボーダーコリー	40.0 (27.5)
13位	加藤 昌宏	埼玉県	Lesqua	Aシェパード	39.5
14位	海老江 晃男	北海道	アトム	ボーダーコリー	39.0
15位	松林 かおり	東京都	クローバー	ラブラドル	38.0
16位	中尾 園枝	北海道	楓こ	ボーダーコリー	37.0
17位	増田 隆行	北海道	ぴ〜ち	ボーダーコリー	33.5
18位	若狭 輝光	青森県	風子	ラブラドル	31.0
19位	岡 美加	福岡県	Grass	ボーダーコリー	29.5

◆レディースチャンピオンシップ(2004年10月10日)

順位	氏名	出身地	犬名	犬種	獲得得点
優勝	青柳 愛佳	北海道	スヌーピー	ボーダーコリー	90
準優勝	福本 紗良	茨城県	フィーユ	ボーダーコリー	86
3位	福本 聡子	茨城県	ミニヨン	ボーダーコリー	79
4位	杉本 恵子	北海道	ミキちゃん	ラブラドル	76
5位	友広 浩子	北海道	ムーン	ボーダーコリー	72
6位	青柳 愛佳	北海道	ライフ	NZハンタウエイ	51
7位	田口 佳奈	岡山県	LUKE	ボーダーコリー	48
8位	須貝 ひとみ	岐阜県	タフィー	ボーダーコリー	46
9位	稲葉 有紀	滋賀県	ウィンク	ボーダーコリー	45
10位	福本 紗良	茨城県	ラッキー	ボーダーコリー	42 (20)
11位	平岩 砂也子	群馬県	スカリー	ボーダーコリー	42 (17)
12位	大沢 久枝	北海道	サム	ボーダーコリー	41
13位	島津 加奈子	福岡県	ニオロ	ボーダーコリー	40
14位	鈴木 亜美	愛知県	ラブ	ラブラドル	39
15位	横山 まゆみ	高知県	ナミ	ボーダーコリー	38
16位	加藤 さおり	千葉県	ハリー	ラブラドル	37 (22)
17位	田口 佳奈	岡山県	LOVE	ボーダーコリー	37 (17)
18位	安田 教子	神奈川県	ガーフィー	ボーダーコリー	37 (16)
19位	安心院 真代	岐阜県	ジュリア	ボーダーコリー	36 (24)
20位	小田島ヒロ子	埼玉県	ヴィッツ	ラブラドル	36 (13)
21位	光井 美佳	大阪府	GRACE	ラブラドル	35 (18)
22位	大沢 久枝	北海道	ホリー	ラブラドル	35 (12)
23位	松尾 直美	長崎県	NOVA	ボーダーコリー	34
24位	片岡 千賀子	香川県	ゆ〜り	ボーダーコリー	32
25位	佐々木 美香	岩手県	チェック	ボーダーコリー	31
26位	増田 真代	東京都	虎之助	Aシェパード	29
27位	榊原 眞由美	愛知県	BethMarch	ボーダーコリー	28
28位	松澤 典子	兵庫県	グレイス	ファラオハウンド	24 (15)
29位	河村 理恵子	兵庫県	ピース	ラブラドル	24 (8)
30位	米谷 好江	大阪府	ライア	ボーダーコリー	23 (13)
31位	仲 真巨	埼玉県	ルース	グローネンダール	23 (7)
32位	加藤 理恵	熊本県	ハイジ	ボーダーコリー	23 (6)
33位	平岩 砂也子	群馬県	セーナ・シェリー	ボーダーコリー	19 (14)
34位	若狭 由巳	東京都	ACE	ボーダーコリー	6

◆ロングディスタンスチャンピオンシップ(男子の部)(2004年10月10日)

順位	氏名	出身地	犬名	犬種	獲得得点
優勝	寺西 弘行	大阪府	Rachel	Aシェパード	67.17m
準優勝	杉本 繁郎	北海道	ミキちゃん	ラブラドル	65.52m
3位	杉尾 祐児	兵庫県	CoCo	ラブラドル	62.81m
4位	杉尾 祐児	兵庫県	テル	ラブラドル	61.26m
5位	高田 雄二	兵庫県	GUAPA	ラブラドル	58.90m
6位	団野 悦郎	大阪府	アニー	ラブラドル	58.42m
7位	今村 英喜	熊本県	WEED	ウイペット	58.03m
8位	水越 徹	東京都	せれ	ボーダーコリー	49.14m
—	杉尾 浩一	宮崎県	サイファ・ルセロ	ボーダーコリー	記録なし
—	鈴木 敢	神奈川県	Ricks	ボーダーコリー	記録なし
—	城本 英巳	北海道	果梨	ミックス	記録なし

◆ロングディスタンスチャンピオンシップ(女子の部)(2004年10月10日)

順位	氏名	出身地	犬名	犬種	獲得得点
優勝	横山 まゆみ	高知県	アクセル	ボーダーコリー	53.22m
準優勝	堤 三恵子	佐賀県	ラック	ボーダーコリー	44.24m
3位	松尾 直美	長崎県	GLAY	ボーダーコリー	43.85m
—	岡崎 愛子	大阪府	ダイナ	NZハンタウエイ	記録なし
—	吉岡 佐都	岡山県	ダージリン	ウエルシュコーギー	記録なし

◆ユースオープン団体戦の部(2004年10月9日)

順位	氏名	出身地	犬名	犬種	平均得点
優勝	青柳 洋平 千葉 光敏 友広 祐也 杉本 繁郎 城本 英巳 海老江 晃男	北海道	シェビー マジック リズ バーディー 果梨 あいちゃん	ボーダーコリー ボーダーコリー ラブラドル ラブラドル ミックス ボーダーコリー	51.0
準優勝 (中国Ⅰチーム)	中川 剛彦 杉本 芳春 柳 諭 西内 勲 近藤 高弘	広島県	菜々子 ウィッシュ KATE アニー クッキー	ラブラドル ラブラドル ラブラドル ゴールデン ラブラドル	45.6
3位 (中国Ⅱチーム)	渋谷 功寛 有和 聖治 千田 弘典 小林 勝	岡山県 鳥取県 岡山県 岡山県	あんず ジュリ ルーナ レック	ラブラドル ボーダーコリー ボーダーコリー ボーダーコリー	44.25
4位	山本 勝 後藤 智弘 江村 康秀 川崎 忠男 新津 芳博	静岡県	モネ ビート リオ ライナス ベル	ダルメシアン ラブラドル ボーダーコリー ボーダーコリー ボーダーコリー	43.4
5位	木村 均昇 近藤 義一 吉野 義一	熊本県	ラディ チェス フリッサ	ラブラドル ラブラドル ボーダーコリー	43.33
6位 (信越チーム)	河村 悦郎 須藤 充 小諸 一男 大嶋 匡 八木 逸郎	新潟県	淀姫 モア らん アーピン チンクチェント	ラブラドル ボーダーコリー Aシェパード ラブラドル ラブラドル	42.8
7位 (兵庫Ⅰチーム)	田中 勝則 空野 正志 川崎 良輝 山本 憲治 杉尾 進	兵庫県	遥 さいら KOBE ピース COCO	ボーダーコリー ラブラドル ラブラドル ラブラドル ラブラドル	38.8
8位 (兵庫Ⅱチーム)	山上 靖孝 六上 昌二 田際 清一 舟辺 総一 玉井 泰生	兵庫県	シンディー ルナ アル パディ マギー	ボーダーコリー ジャックラッセル ボーダーコリー ラブラドル ラブラドル	37.4
9位 (東京Ⅰチーム)	山下 英樹 藍澤 隆治 若狭 金吾 増田 真代 増田 健	東京都	くう ヨーゼフ ACE 虎之助 風子	ボーダーコリー Aシェパード ボーダーコリー Aシェパード Aシェパード	36.0
10位	小野 晃弘 菊地 涼太 中川 成人 小祝 英二 川野 正	茨城県	しま メロディー クララ 王子 小波	ボーダーコリー ゴールデン ボーダーコリー ボーダーコリー ラブラドル	35.6

◆ユースオープン団体戦の部(2004年10月9日)

順位	氏名	出身地	犬名	犬種	平均得点
11位	田中 信彦 磯田 正勝 藤原 親 富永 和彦 大西 宏昭	奈良県	ウッディー 華 ハジメ アンリ アンジュ	ラブラドル ラブラドル ウエルシュコーギー ESスパニエル フラットコーテッド	35.4
12位	直江 薫 阪野 鋭一 大島 敏正 榊原 吉隆 河野 賢一	愛知県	わん キトラ ベル ウェンディ サンデー	ダルメシアン ボーダーコリー ラブラドル ボーダーコリー ボーダーコリー	35.2(99)
13位 (東海・近畿チーム)	三浦 武也 山田 芳樹 淀川 和馬 稲葉 有紀 山田 ヒロ子	滋賀県 岐阜県 和歌山県 滋賀県 岐阜県	チェリー CrazyMax ユウ ウイंक Can2	Gシェパード ボーダーコリー ボーダーコリー ボーダーコリー Aシェパード	35.2(95)
14位	仲 雅弘 小田島 賢二 大豆生 博	埼玉県	ルース チャンス ベリー	グローネンダール ミックス ボーダーコリー	34.66
15位	久保 晋一 梅田 良平 石井 勝久 吉田 政博 寺島 大蔵	大阪府	みゆら コニー 天天 タロー あいり	ボーダーコリー ボーダーコリー ウエルシュコーギー Aシェパード ボーダーコリー ボーダーコリー	34.2
16位 (北陸チーム)	越村 義彦 本郷 雅英 藤井 勝明 荻本 健	石川県 富山県 富山県 福井県	天山 笑 ジャスパー ピクシー	ボーダーコリー 柴犬 ボーダーコリー ボーダーコリー	33.25
17位 (九州・沖縄チーム)	上野平 寛 佐藤 茂 上野平 ミユキ 木原 幸樹 松尾 至	佐賀県 宮崎県 佐賀県 大分県 長崎県	LEON 銀香 ラリー フライ GLAY	ボーダーコリー ボーダーコリー シェルティ フラットコーテッド ボーダーコリー	32.0
18位 (東北Ⅰチーム)	谷越 雪絵 松本 毅 若狭 輝光 佐々木 義貴 仲野 英夫	岩手県 青森県 青森県 岩手県 青森県	modern ノエル 風子 セラ ネル	ボーダーコリー ボーダーコリー ラブラドル ボーダーコリー ゴールデン	31.8
19位 (東京Ⅱチーム)	東 太郎 水越 里絵	東京都	マーク ぶりちゃん	ボーダーコリー グローネンダール	31.5(31)
20位	嶋田 和憲 安田 教子	神奈川県	メル POOKY	NZハンタウエイ ボーダーコリー	31.5(26)
21位	中村 裕司 加藤 幹雄 白川 政明 早津 順子 白井 保	千葉県	フラッシュ ハリ こはる サエ くりす	ボーダーコリー ラブラドル ラブラドル ウエルシュコーギー ボーダーコリー	30.6
22位	杠 朋典 津加 奈子 紙渡 祐次 河上 徳次	福岡県	AZERI アスラン D ケンシロウ	ボーダーコリー ボーダーコリー ボーダーコリー Bターピュレン	30.5
23位	安川 茂之 馬淵 和明 石川 貴彦 北村 覚	京都府	Thankyou!! ルキ サラダ 可憐	NZハンタウエイ ボーダーコリー ボーダーコリー NZハンタウエイ	27.5
24位 (大阪Ⅱチーム)	松尾 拓弥 永田 洋暁 田中 洋 小西 建志 大山 竜太郎	大阪府	アイリス DINO 夢 Comete リンク	Aシェパード Aシェパード ボーダーコリー ボーダーコリー アイリッシュセター	26.4
25位 (関東チーム)	笠原 崇司 深沢 久夫 橋本 純	群馬県	ブライト エディ クレア	ボーダーコリー ボーダーコリー ボーダーコリー	25.66
26位	中條 克美 青木 正章 畑中 松雄 杉田 健司 杉山 和正	三重県	ハナ ハッピー・ゴブリン アルファ チャンプ マック	ボーダーコリー ボーダーコリー フラットコーテッド ボーダーコリー ボーダーコリー	23.2
27位 (東北Ⅱチーム)	浜出 理加 堀 久夫 水村 幸代	宮城県	ウナ キアラ TRACY!	ボーダーコリー ボーダーコリー ラブラドル	19.66
28位 (四国チーム)	山崎 光 片岡 裕貴 高橋 宏光	高知県 香川県 高知県	サンダーボルト桃花 なつめ RON	ボーダーコリー ボーダーコリー ボーダーコリー	18.66

◆ユースオープン個人戦の部 (2004年10月9日)

順位	氏名	出身地	犬名	犬種	獲得点
優勝	上野平 寛	佐賀県	LEON	ボーダーコリー	96
準優勝	後藤 智弘	静岡県	ビート	ラブラドル	93
3位	千葉 光敏	北海道	マジック	ボーダーコリー	90
4位	川崎 良輝	兵庫県	KOBE	ラブラドル	87(29)
5位	久保 晋一	大阪府	みゆら	ボーダーコリー	87(28)
6位	須藤 充	新潟県	モア	ボーダーコリー	84
7位	西内 勲	広島県	アニー	ゴールデン	83
8位	笠原 崇司	群馬県	ブライト	ボーダーコリー	76
9位	青柳 洋平	北海道	シェビー	ボーダーコリー	73
10位	中村 裕司	千葉県	フラッシュ	ボーダーコリー	60
11位	海老江 晃男	北海道	あいちゃん	ボーダーコリー	54
12位	千田 聖治	岡山県	ルーナ	ボーダーコリー	53(29)
13位	田中 信彦	奈良県	ウッディー	ラブラドル	53(24)
14位	三浦 武也	滋賀県	チェリー	Gシェパード	52
15位	友広 祐也	北海道	リズ	ラブラドル	51(31)
16位	杉本 繁郎	北海道	パーディー	ラブラドル	51(30)
17位	吉野 義一	熊本県	プリッサ	ボーダーコリー	51(22)
18位	中川 成人	茨城県	クララ	ボーダーコリー	51(21)
19位	藍澤 隆治	東京都	ヨーゼフ	Aシェパード	50(34)
20位	稲葉 有紀	滋賀県	ウィंक	ボーダーコリー	50(28)
21位	江村 康秀	静岡県	リオ	ボーダーコリー	50(25)
22位	藤原 親	奈良県	ハジメ	ウエルシュコーギー	48(28)
23位	山六 靖孝	兵庫県	シンディー	ボーダーコリー	48(26)
24位	小祝 英二	茨城県	王二	ボーダーコリー	48(24)
25位	玉井 泰生	兵庫県	マギー	ラブラドル	47(27)
26位	淀川 和馬	和歌山県	ユウ	ボーダーコリー	47(24)
27位	安川 茂之	京都府	Thankyou!!	NZハンタウェイ	47(22)
28位	嶋田 和憲	神奈川県	メル	NZハンタウェイ	47(21)
29位	有和 寛	鳥取県	ジュリ	ボーダーコリー	47(19)
30位	小林 弘典	岡山県	レック	ボーダーコリー	47(18)
31位	柳 諭	広島県	KATE	ラブラドル	46(30)
32位	中川 剛彦	広島県	菜々子	ラブラドル	46(22)
33位	木村 均	熊本県	ラディ	ラブラドル	46(16)
34位	近藤 高弘	広島県	クッキー	ラブラドル	45(24) (8×3)
35位	若狭 金吾	東京都	ACE	ボーダーコリー	45(24) (8×1)
36位	東 太郎	東京都	マーク	ボーダーコリー	45(24) (7)
37位	山本 勝	静岡県	モネ	ダルメシアン	45(22)
38位	越村 義彦	石川県	天山	ボーダーコリー	45(21)
39位	松本 毅	青森県	ノエル	ボーダーコリー	45(16)
40位	大豆生田 博	埼玉県	ベリー	ボーダーコリー	43
41位	八木 逸郎	新潟県	チンクチェント	ラブラドル	42(24)
42位	寺島 大蔵	大阪府	あいり	ボーダーコリー	42(20)
43位	佐藤 茂	宮崎県	銀香	ボーダーコリー	42(14)
44位	田中 勝則	兵庫県	遥	ボーダーコリー	41
45位	大山 竜太郎	大阪府	リンク	アイリッシュセター	40(26)
46位	河村 悦郎	新潟県	淀姫	ラブラドル	40(24)
47位	河野 賢一	愛知県	サンデー	ボーダーコリー	40(20)
48位	空野 正志	兵庫県	さいら	ラブラドル	40(16)
49位	舟辺 総一	兵庫県	パディ	ラブラドル	39
50位	若狭 輝光	青森県	風子	ラブラドル	38
51位	城本 英巳	北海道	果梨	ミックス	37(30)
52位	松尾 拓弥	大阪府	アイリス	Aシェパード	37(15)
53位	阪野 錠一	愛知県	キトラ	ボーダーコリー	36(24)
54位	川野辺 正	茨城県	小波	ラブラドル	36(21)
55位	神原 吉隆	愛知県	ウェンディ	ボーダーコリー	36(16)
56位	仲 雅弘	埼玉県	ルース	グローネンダール	36(10)
57位	大嶋 匡	新潟県	アービン	ラブラドル	35(22)
58位	増田 真代	東京都	虎之助	Aシェパード	35(20)
59位	川崎 忠男	静岡県	ライナス	ボーダーコリー	35(17)
60位	藤井 勝明	富山県	ジャスパー	ボーダーコリー	34
61位	直江 薫	愛知県	わん	ダルメシアン	33(21)
62位	島津 加奈子	福岡県	アスラン	ボーダーコリー	33(19)
63位	杉尾 進	兵庫県	CoCo	ラブラドル	33(15)
64位	杉本 芳春	広島県	ウィッシュ	ラブラドル	33(12)
65位	近藤 昇	熊本県	チェス	ラブラドル	33(10)
66位	小諸 一男	新潟県	らん	Aシェパード	32(12)
67位	白川 政明	千葉県	こはる	ラブラドル	32(11)
68位	大島 敏正	愛知県	ベル	ラブラドル	31(18) (8)
69位	佐々木 義貴	岩手県	セラ	ボーダーコリー	31(18) (6)
70位	上田 昌二	兵庫県	ルナ	ジャックラッセル	31
71位	小野 晃弘	茨城県	しま	ボーダーコリー	30(22)
72位	紙漣 祐次	福岡県	D	ラブラドル	30(18)
73位	北村 寛	京都府	可憐	NZハンタウェイ	30(14) (6) (5)

◆ユースオープン個人戦の部(2004年10月9日)

順位	氏名	出身地	犬名	犬種	獲得得点
74位	河上 徳次	福岡県	ケンシロウ	Bタービュレン	30(14)(6)(4)
75位	本郷 雅英	富山県	笑	柴犬	30(12)
76位	石井 勝久	大阪府	天天	Aシェパード	30(6)(8)
77位	渋谷 功	岡山県	あんず	ラブラドル	30(6)(6)
78位	永田 洋暁	大阪府	DINO	Aシェパード	29(14)(8)
79位	杠 朋典	福岡県	AZERI	ボーダーコリー	29(14)(7)
80位	新津 芳博	静岡県	ベル	ボーダーコリー	29(12)
81位	谷越 雪絵	岩手県	modern	ボーダーコリー	29(8)
82位	磯田 正勝	奈良県	華	ラブラドル	28(14)
83位	山下 英樹	東京都	くう	ボーダーコリー	28(6)
84位	堀 久夫	宮城県	キアラ	ボーダーコリー	27(21)
85位	山田 ヒロ子	岐阜県	Can ²	Aシェパード	27(17)
86位	吉田 政博	大阪府	タロー	ボーダーコリー	27(16)
87位	中條 克美	三重県	ハナ	ボーダーコリー	26(13)
88位	上野平 ミユキ	佐賀県	ラリー	シェルティ	26(12)
89位	加藤 幹雄	千葉県	ハリ	ラブラドル	25(16)
90位	富永 和彦	奈良県	アンリ	ESスパニエル	25(15)
91位	片岡 裕貴	香川県	なつめ	ボーダーコリー	25(12)
92位	小田島 賢二	埼玉県	チャンス	ミックス	25(11)
92位	青木 正章	三重県	ハッピー・ゴプリン	ボーダーコリー	25(11)
94位	藪本 健	福井県	ピクシー	ボーダーコリー	24
95位	杉山 和正	三重県	マック	ボーダーコリー	23(10)
96位	大西 宏昭	奈良県	アンジュ	フラットコーテッド	23(9)
97位	浜出 理加	宮城県	ウナ	ボーダーコリー	23(6)
98位	山本 憲治	兵庫県	ピース	ラブラドル	22(16)
99位	白井 保	千葉県	くりす	ボーダーコリー	22(12)
100位	増田 健	東京都	風子	Aシェパード	22(6)
101位	辻際 清一	兵庫県	アル	ボーダーコリー	22(0)
102位	畑中 松雄	三重県	アルファ	フラットコーテッド	21(14)(8)
103位	杉田 健司	三重県	チャンプ	ボーダーコリー	21(14)(7)
104位	早津 順子	千葉県	サエ	ウエルシュコーギー	20(8)
105位	山崎 光	高知県	サンダーボルト桃花	ボーダーコリー	20(6)
106位	水越 里絵	東京都	ぶりちゃん	グローネンダール	18
107位	馬淵 和明	京都府	ルキ	ボーダーコリー	17
108位	仲野 英夫	青森県	ネル	ゴールドデン	16(13)
109位	木原 幸樹	大分県	フライ	フラットコーテッド	16(6)
110位	安田 教子	神奈川県	POOKY	ボーダーコリー	16(5)
111位	石川 貴彦	京都府	サラダ	ボーダーコリー	16(0)
112位	田中 洋	大阪府	夢	ボーダーコリー	14
113位	松尾 至	長崎県	GLAY	ボーダーコリー	13(13)
114位	梅田 良平	大阪府	コニー	ウエルシュコーギー	13(0)
115位	菊地 涼太	茨城県	メロディー	ゴールドデン	13(0)
116位	橋本 純	群馬県	クレア	ボーダーコリー	12(12)(7)
117位	小西 健志	大阪府	Comete	ボーダーコリー	12(12)(6)
118位	高橋 宏光	高知県	RON	ボーダーコリー	11
119位	水村 幸代	宮城県	TRACY!	ラブラドル	9
120位	深沢 久夫	群馬県	エディ	ボーダーコリー	5
121位	山田 芳樹	岐阜県	CrazyMax	ボーダーコリー	-

◆小型犬の部(2004年10月9日)

順位	氏名	出身地	犬名	犬種	獲得点
優勝	梅田 美智子	大阪府	コニー	ウエルシュコーギー	96
準優勝	小川 悦郎	福岡県	CREA	ジャックラッセル	89
3位	吉岡 達浩	岡山県	ダーズリン	ウエルシュコーギー	87
4位	藤原 親	奈良県	ハジメ	ウエルシュコーギー	74
5位	岡本 邦宏	兵庫県	ショコラ	ウエルシュコーギー	72
6位	加藤 宣文	千葉県	なな	ミックス	50(24)
7位	古東 優子	大阪府	Guy-Sport	ウエルシュコーギー	50(23)
8位	牧浦 高史	京都府	カロン	ウエルシュコーギー	48(26)
9位	福原 芳郎	兵庫県	ミミ	ジャックラッセル	48(20)
10位	溝尾 雅広	広島県	エリス	ウエルシュコーギー	47
11位	藤田 篤	兵庫県	Sakura	ジャックラッセル	46
12位	関 浩寿	埼玉県	小太郎	ウエルシュコーギー	44(25)
13位	赤羽根 伸一	東京都	ロビ	ウエルシュコーギー	44(24)
14位	緒賀 友繁	大阪府	ワンダー	ピーグル	41(27)
15位	長橋 哲哉	埼玉県	チョコビ	ウエルシュコーギー	41(21)
16位	大麻 洋之	神奈川県	ファア	ウエルシュコーギー	40
17位	後藤 公彦	埼玉県	暦	ウエルシュコーギー	38
18位	小島 宏允	京都府	リリィ	ウエルシュコーギー	35
19位	深見 秀隆	岐阜県	ポポ	ウエルシュコーギー	31(24)
20位	本郷 雅英	富山県	笑	柴犬	31(14)
21位	三崎 彰午	和歌山県	ミュウ	ウエルシュコーギー	21
22位	畔出 裕隆	東京都	Brian	ジャックラッセル	20
23位	宮川 裕子	東京都	もね	ウエルシュコーギー	14

◆シニアドッグの部(2004年10月9日)

順位	氏名	出身地	犬名	犬種	獲得点
優勝	須藤 充	新潟県	CHIT	ミックス	82
準優勝	池元 英彦	千葉県	ブルース	ゴールデン	77
3位	福原 芳郎	兵庫県	リリー	ボーダーコリー	69
4位	浜出 いさお	宮城県	パニラ	ゴールデン	65
5位	越村 義彦	石川県	榛名	ボーダーコリー	64
6位	杉本 繁郎	北海道	バーディー	ラブラドル	43
7位	池元 英彦	千葉県	ジャズ	ゴールデン	36
8位	佐藤 茂	宮城県	トニー	ボーダーコリー	31
9位	川野辺 正	茨城県	凧	ラブラドル	30
10位	水越 里絵	東京都	せれ	ボーダーコリー	25(11)
11位	山田 ヒロ子	岐阜県	CrazyMax	ボーダーコリー	25(8)
12位	加部 真巳	大阪府	遊	ウエルシュコーギー	24
13位	加藤 昌宏	埼玉県	ジェイ	ウエルシュコーギー	19

◆こどもの部(高学年)(2004年10月10日)

順位	氏名	出身地	犬名	犬種	獲得点
優勝	堤 英登	佐賀県	ラック	ボーダーコリー	106
準優勝	三浦 杏奈	滋賀県	チェリー	Gシェパード	94
3位	空野 渚	兵庫県	さいら	ラブラドル	64
4位	堤 ほの花	佐賀県	ラック	ボーダーコリー	55
5位	福本 巴亜人	茨城県	ラッキー	ボーダーコリー	41(26)
6位	嶋田 歩優	神奈川県	メル	NZハンタウエイ	41(21)
7位	安心院 広遥	岐阜県	ジュリア	ボーダーコリー	38

◆こどもの部(低学年)(2004年10月10日)

順位	氏名	出身地	犬名	犬種	獲得点
優勝	橋間 秀果	東京都	J	ウイペット	114
準優勝	長田 憲幸	兵庫県	SHERRY	ボーダーコリー	79
3位	竹山 真宮子	兵庫県	リアル	ラブラドル	76
4位	堀 純平	宮城県	キアラ	ボーダーコリー	41
5位	佐野 桂祐	新潟県	Pekoくん	ボーダーコリー	38
6位	古橋 慎之介	静岡県	アリス	ボーダーコリー	36
7位	辻際 尚子	兵庫県	アル	ボーダーコリー	34
8位	山下 淑恵	東京都	くう	ボーダーコリー	33
9位	藤井 涼輔	富山県	Spoon	ボーダーコリー	10

JAPANFINAL 2004 参戦記

2004年度グランドチャンピオン 森稔之&MISIA

「どうせ飼うなら、ドックススポーツだー!」で迎えたのが先住犬、B・コリーのKENT君、ところがディスクよりも人と小型犬が好きなヘラヘラ君!!

でも彼から、いろいろな事、楽しむ事をお知恵してもらい、もっと楽しむ為に「もう一匹飼おう!」と我が家にやって来たのがMISIA!

最初は、ディスクどころじゃないぐらい投げようと思ったらすくそで「ピョヨ〜」の子だった。

決して、まっすぐディスクを投げれた訳じゃないけど彼女のひたむきさに答えねばと日々奮闘した……。

2001年 木祖村大会で初の39p! (よくわからないうちに出来ちゃった)

2002年 横須賀シリーズ戦で初の100p越え!! (MISIAに助けられた)

同年 長岡大会ではトーナメントながら40p! (検疫明けでハイパー犬だった)

すごくいろんな事を自分にプレゼントしてくれたけどどうしても3年連続グラチャン出場して、決勝には残る事が出来なかった。

それどころか納得のいくディスクが投げれてない自分が居た。(雨・風・すごい大会ばかりだったし……と言い分けギミ)

4年目の今年は、敗者復活からのエントリー……何も考えず、これまで頑張って来てくれたMISIA、カミさんや娘の応援に答えるためにも、無の気持ちで投げた。

実際、決勝に残れた事がすごく嬉しかった。それも姉妹で……。結果、伝統あるフリスビードック協会で、優勝を飾れた事は自分にとって宝物であり、MISIAとは最高のチームだと自負しています。

応援して下さい皆さん、本当にありがとうございます。これからもよろしく願います。



2004年度フリーフライトチャンピオン 早川利幸&BEAT

今年一年間のシーズンはいろいろな都合によりほとんど大会にエントリーする機会がなくシーズンも終わりジャパンファイナルに出場するようでした。

去年に引き続きなんと2年連続でフリーフライトチャンピオンをとおもっていたもののあまり大会に出ていなかったで少し自分の気持ちの不安とビートの調子の不安もありました。でも自分の思っていたよりビートも動いてくれて自分のミスのカバーもしてくれて助かる場面もあり結果、フリーフライトチャンピオンを獲得することができました。

一年間のシーズンはほんとと短く感じます。来シーズンもまもなく開幕します。来シーズンもどれだけエントリーできるかわかりませんがまた一年間ビートとともに参加できればと思います。

2004年度レディースチャンピオン 青柳愛佳&スヌービー

ジャパンファイナルお疲れ様でした。

夢の大舞台に立つことが出来、更にスヌービーとのペアで最大の目標であった「レディース優勝」することが出来、最高に嬉しく思っています。

今シーズンは、ジャパンファイナルに出場したい一心で必死に頑

張って、何度も本州に遠征に行きました、振り返ると辛いことも沢山ありましたがそれ以上に素晴らしい仲間との出会いやの素敵な思い出を沢山作ることが出来ました。遠征の際に色々とお世話になりました皆様にご場をお借りして心からお礼申し上げます、有難うございました。

今回のファイナルでは1年間積み上げてきた集大成を全て出し切ることが出来頑張ってきて良かったな〜と心から思っております。

最後に、長時間の船旅も大嫌いな飛行機も我慢して乗り越えてくれ、長旅の疲れも見せずに全力でフリスビーを追って走ってくれたスヌービー・ライフ・シェビーの頑張りがあった、ここまでやってこれました、感謝の気持ちで一杯です!!

ありがとうね〜そしてこれからも頑張って行こうね〜!

来年もまた、楽しく明るく元気に参加出来たらいいな〜と思っています。



2004年度ロングディスタンス (男子の部) チャンピオン 寺西弘之&レイチェル

私がRachel(レイチェル)とフリスビーの大会に出たのは2002年5月のしあわせの村での大会でした。初めのうちは大会に出るたびにRachelがコート外に走って行ってしまったり、ディスクを持って帰ってこなかったりと今のようになるまで大変だったことを思い出します。

ロングディスタンスに出始めたのは去年の大会からでした。去年はRachelとの息が合わず、一投もキャッチができませんでした。

ディスタンスの方でもキャッチ率が悪く、『もっとキャッチの練習をした方がいいのでは?』とアドバイスももらいキャッチ率を上げるように練習しました。すると今年のRachelは何か違いました。大会に出るたびにディスクをキャッチしてくれるのです。今年は4回ロングディスタンスに出ましたが、キャッチのできなかった大会は1回だけだったのです。

そして、フリスビーを始めて3年目(ロングディスタンスは2年目)になる今年、初めてファイナルにでることができました。そして大会当日、練習スローをしている出場選手を見て、やはりファイナルに残る人たちはみんなディスクをよく飛ばすなあと感じていました。大会が始まって、いい記録が出ていくたびに、絶対いい記録を出さないといけないと思い、緊張してしまいました。自分の出番になり、スタートの合図、1投目、見事にRachelはキャッチ。しかし2投目は力んでしまいミススロー、そしてラストチャンスになる3投目、力を抜いて……と思いながら投げ出したディスクの軌道は理想の飛び方をしていました。Rachelも勢いよく飛び出し、少し余裕を持ってキャッチ!! Rachelやったぞ! 3投目が一番飛びました記録の方は、67.17メートルそれも自己ベストの記録でした。

決勝ではRachelは疲れきっていました。走り方は予選とぜんぜん違い、最後のダッシュもなく記録はできませんでした。結果的に予選の記録がそのまま記録となりました。

初めてのファイナル出場でも、たくさんの観戦者、今までの大会ではあじわうことのできない皆さんの声援の中で競技できたことはすごく印象に残っています。

最後に、いつもアドバイス、ご指導をいただいているみなさんありがとうございました。



2004年度ロングディスタンス(女子の部)チャンピオン 横山まゆみ&アクセル

10月9日仕事を終え、大会に向う道すがら考えることは先に三重に向っている台風のことばかりでした。会場に着くと私たちの心配をよそにスカッとした快晴の空が広がっていました。

場所の都合で急遽コートに向って投げるようになった時には、どうしよう…自信のなさがピークに達していました。

私の不安をよそに、ゲージを出たアクセルはやる気満々!

いつも、やる気だけが空回りするアクセル。今日こそは、しっかりキャッチできるディスクを投げてあげなくちゃ! あせる気持ちを何とか落ち着かせていざ出番です。

スタートのカウントダウンが始まると頭の中は真っ白。フェンスの方に投げてはいけないと思っていたのにディスクは本部テントへ。

高く上がるとキャッチ率が格段に落ちてしまうアクセルにとって取り難いディスクばかりでしたが、何とか記録が残りました。結果、予選一位通過!

回りのみんなにほめてもらって、本当にうれしそうに甘えているアクセル。幸せそうな姿を見ていると、こっちまで幸せな気分になりました。

決勝はやはり緊張!一投目。

低い! そう思った一投が優勝記録となりました。

凄いスピードで追いついてくれたアクセルに感謝!

そして、いっぱいアクセルをほめてくれた皆さん、ありがとう!

小さな子連れの私たちを大会に集中させてくれる仲間みんな、この場を借りて本当にありがとう!

そして、私のために三重までこころよく運転手をしてくれたパパ、ありがとう。来年は一緒にファイナル出ようネ。

これからもナミとアクセルを中心にみんな楽しんで行きたいです。ありがとうございました。



ム北海道全員が愛犬と楽しくプレーが出来た結果だと思います。

これから北海道は雪が降りますが、半年間雪の中でトレーニングをして来年に向けて頑張ります。

最後にJFAスタッフ及び各クラブスタッフ会員の皆さん1年間ご苦労さまでした。



2004年度ユースオープンの部(団体戦)チャンピオンチーム北海道 友広祐也&リス

今年の北海道はレベルが高く、ユースにノミネートされるのも大変でした。

その中を勝ち抜いた6チームが、北海道チームとしてファイナルに出場しました。

そして北海道からの遠征というハンデをもろともせず、皆が力を出しきって優勝することが出来ました。

こんなに、団体での優勝が嬉しいとは思いませんでした。

愛犬のリスはラブラドルなのに水が苦手です1R目は雨の中でのラウンドで、これは走らないなあっと思っていたとおり返りが遅い…….とにかく4投は投げたいと3投目にチョロをいれてみたもののキャッチの時に、リスの顔に水しぶきがかかり、さらにスピードダウン結局、3投で終わり何のためのチョロだったのか…….

2R目は雨は止んでのラウンド、チームメイトの30オーバーの声を聞き勿論、ねらいはロング4投、雨も上がったおかげでリスも元気になりロング4投成功!の31P、自分達の力を出せて満足でした。

その後、チームメイトも高ポイントの連続でなんと!平均得点が51Pで優勝!

来年も2連覇めざして頑張りましょう!



2004年度ユースオープンの部(団体戦)チャンピオンチーム北海道 青柳洋平&シェビー

今シーズンの最大の目標『ジャパンファイナル出場』が達成出来、更にユース団体の部で優勝が出来たことは最高に嬉しく思っています!

北海道チームのチームワークの良さが勝因だったのではないのでしょうか、この勢いを来シーズンまで継続させ北海道チーム2連覇を目標にして頑張ります!!

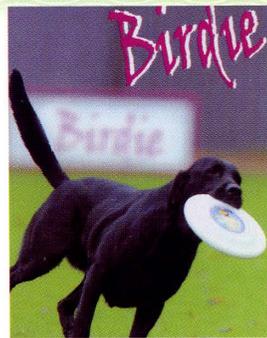


2004年度ユースオープンの部(団体戦)チャンピオンチーム北海道 杉本繁郎&バーディー

今年の北海道ユースチームは出場6チーム全員が全国ランキング30位以内という実力者がそろい、北海道チームの代表になるだけでも一苦労でした。その中で今年7歳のバーディーが残れたことがまず嬉しかった。

当日は他の北海道メンバーの好成績にひつばられてバーディーも目標の50pをクリアできました。この日シニアドックの部とも出場が重なりましたが、元気に走ってくれたバーディーに感謝です。

来シーズンもシニアとユースでジャパンファイナルを目指して頑張ります。



2004年度ユースオープンの部(団体戦)チャンピオンチーム北海道 千葉光敏&マジック

私は、フリスビーを始めて今年で5年。愛犬マジックとは3年になります。

この度、ジャパンファイナルに出場出来たことを大変嬉しく思います。又、長旅と台風の影響もあり不安でしたが、ユースオープンの部で団体優勝出来たのも、沢山の皆さんの応援があった事とチー

2004年度ユースオープンの部(団体戦)チャンピオンチーム北海道 城本英巳&果梨

北海道の短い夏、そしてアツと言う間のディスクシーズン。

その中で何とか掴んだジャパンファイナルの出場権!

本当に今年の北海道シリーズは激戦だった。半分はあきらめかけたユースオープンのファイナル権だった。上位4チームが200ポイントアップ、5位、6位が同ポイントで6チームに与えられたファイナル権、自分はその6位での出場だった。

そして向えた大会初日は台風の影響で大雨。そう、果梨の苦手な大雨!

何を隠そう果梨は、傘をさした人間が大の苦手だった。そして傘

をさす人間がコートの中に立っている。雨でディスクは滑るし頭の中はマイナスのイメージでいっぱいだった。

そんな中でチーム北海道トップバッター海老江氏はたんとポイントをかさね、ファイブキャッチの29ポイント!

プレッシャーが重くのしかかる中自分の出番がやってくる。

一投目、こわばって思うように腕が動かない……!?

低いスローイングに追いつかない果梨が虚しくコート内を走っていた。

そこからは頭の中が真っ白で何も覚えていない。結果、1R目はワンキャッチ7ポイントだった。

その後みんな着実にポイントを残している、コケたのは自分ひとりだけだった。みんなゴメン!!

これ以上足を引っ張るわけには行かない第2R、傘をさすジャッジを怖がる事も無く、果梨が頑張ってくれた。結果30ポイント!!

何とか面目を保つ事ができた。その後、チーム北海道残り全員が30ポイントアップの快進撃!!

終わってみると、平均51ポイントの断トツ優勝でした。

試合後、「足を引っ張ってゴメン!」と謝る自分に、「2R目のジョモリンの頑張りが、みんなの高得点につながったんだよ!」とみんなの暖かい言葉、本当に涙が出そうでした。みんなありがとう!そしてゴメン!

個人戦では結果を残せませんでした。金メダルと津軽海峡を越えた真紅の大優勝旗、3回目の出場も最高のジャパンファイナルになりました。

来年は、ディスタンス、ロング、フリーの3種目にノミネートされるよう、毎日練習に励みたいと思います。

最後に今シーズンも元気に頑張ってくれた、我が家のワンたちにご苦労様、そしてありがとう!!

2004年度ユースオープンの部(団体戦)チャンピオンチーム北海道 海老江晃男&あいちゃん

台風22号の接近情報により不安な一夜を明かした。そして大会当日朝起きると、雨降りの予想通りの天気、それでも風はそれ程でもなく大会は決行される事に決まった。ユースオープンは団体戦、個人戦の場合は失敗があっても自己責任で終わるが、団体戦となるとみんなに迷惑がかかる、失敗は絶対にゆるされない。さすがにプレッシャーがかかる。

野球であれば5打数5安打、パーフェクトを達成しなければならぬ。

あれこれ考えながらも久しぶりに心地良い興奮状態で大会に臨んだ。良しやるぞ、心構えは出来た、心の中で叫んだ!

出番が来た、名前を呼ばれ愛犬あいちゃんとスタートラインに立つ、一呼吸おいて、レディーゴーの合図、慎重に第一投を投げる、あいちゃん見事にキャッチ、frisbeeをしっかりとくわえ喜び勇んで戻ってくる。

内心良しいけるぞと思った。

第2投、第3投、第4投、第5投、OK全てナイスキャッチ、パーフェクトだ。

ポイントは29ポイント良しやった責任ははたした。

あいちゃんをしっかり抱きしめ、感謝した。あいちゃんも私の目を見てお父さん良かったねと云ってくれた……。大会は順調に進み、気が付いて見ると仲間達もそれぞれ頑張り結果は“優勝”。

本大会最高の名誉“全国優勝”を手にしたのだ。

表彰台上がった仲間達の喜び姿を見て心からほんとうに良かったと思った。何とも云われない充実感と満足感……。

これがfrisbeeの醍醐味なのだと、しみじみ感じた大会でした。ありがとうJFA、ありがとう仲間達、そして私の最高のパートナーあいちゃん!



2004年度ユースオープンの部(個人戦)チャンピオン 上野平寛&LEON

シリーズが始まった頃はまだ1才に満たず、キャッチの確率も悪いLEONでした。それでも、frisbee大好きと一緒に1年間楽しみ、先住犬のシェルティーのラリーがもうすぐ9才になるのにユースオープンでジャパンファイナルに行けそうだったので、何とかLEONもつれて出たい!という一心で、シリーズ最後にコースかけ込みで参戦し、何とか出場権を得る事ができました。出場できてよかった!というのが、本当の所でした。

台風の向かってる三重に向かいながら、何とか天候も雨ぐらいで恵まれ、いざ本戦!いつものとんでもないジャンプや走りすぎもなく、よく見てキャッチを決めてくれ、終わってみると、全投キャッチの96ポイント、最高の出来で優勝できました。

戻りの悪さがあった時期、離しの悪さがあった時期、そしてLEONにあう投げ方(シェルティーとは速さも距離も違う)を、直しつつきた1年の成果で大変嬉しく思っています。来期、オープンで上位に入りたい……と期待しています。



2004年度小型犬の部チャンピオン 梅田美智子&コニー

2001年から4年連続小型犬ファイナル出場。

コニーも早いもので4才になっていました。

昨年は主人と日本1になり……では今年は私が頑張る!!と言ったものの……全然上手にディスクを投げられなくて大苦戦の日々が続きました。そして答えは1つ、投げ方を変えなくては無理だと言う答えしかなかった……。

毎日緑地のメンバーと練習をし日々色々な面でアドバイスや励ましの言葉をもらい頑張ってきました。

スローが安定してきたのは夏前でした。そんな事もあり9月からの1ヵ月はガムシヤラでした。どにかファイナル出場権を獲得出来ただけで満足感100%でした。

そしてファイナル。1R32p 2R24pそして決勝へと進み決勝R。今年勝てば2連勝。頭の中の片隅にはあったものの決勝では頭の中は真っ白でMCの声さえ聞こえていませんでした。

ようやく聞こえたP発表。自分でもしんじられない40p。今だに夢みたくです。今年もコニーと一緒に頑張ってくれて良かったです。コニー本当にお疲れ様。ありがとう。

これからもコニーが大スキなfrisbee続けて行こうね。最後になりましたが応援して下さいみなさんありがとうございます。

緑地やクラブのみんな応援してくれてありがとう。これからもよろしくお願ひします。コニー最高。



2004年度シニアドッグの部チャンピオン 須藤充&CHIT

CHIT~おめでとう!そして、ありがとう!!

10.5才と57才……最年長のシニアコンビだぁ~!!!

(気合いだぁ~!!!!)

frisbee始めて10年……

本当に良く頑張っているCHITに、感謝、感謝……

8才の頃、CHITも少し体調を崩し、そろそろfrisbee競技は終わりにしてあげた方が良くないかな~と覚悟したのですが……

その後、彼女のヤル気は全く衰えることなく、今日まで楽しませ



てもらっています。

お互いに白髪も増え、少しずつ足取りも重くなってはいるものの……

彼女のヤル気に耳を傾けながら、これからも無理なく、のんびりと続けて行ければと思っています。

2004年度こどもの部 (高学年) チャンピオン 橋間秀果&J

昨年12月。デビュー戦お台場。初めての大会。緊張とフットフォルトで1Rは0ポイント……2R高ポイントゲットでなぜか優勝!! とても嬉しかったです。

あれから10ヵ月……2004年10月10日のジャパンファイナルに出場そしてしかも優勝する事ができて最高の日になりました。

ジャパンファイナルで応援してくれた人やスタッフの人達に感謝します。ありがとうございました。

最後にすばらしいスーパードッグ達とプレーをしているJはうちの自慢の家族です。J ありがとう。

大好きなJへ 愛 (I) の次は もちろんJ♡



2004年度年間シリーズチャンピオン 井上弘之&ゆふ

まずは、みなさん、1年間お疲れさまでした。楽しかったジャパンファイナルもあっという間に終わり、シリーズチャンピオンの余韻に浸る間もなく、もうすぐそこに2005シリーズの開幕戦がひかえているんですね (あ~せっかく貯めたポイントが~~)。

さて、今シーズンを振り返ってみると、いわゆる強豪チームの優勝というわけではなく、新戦力の台頭が目立ったシーズンではなかったかと思えます。全25戦のシリーズ戦で初制覇を果たしたチームが12チームもありましたし、ランキング50位に初めて入ったチームが18チームもいたり、いろんな形でそのことが表れています。関東グローネンダール軍団や西のウィペット軍団、その他の犬種の活躍も一役買っていましたね。それに負けじとベテラン(?)陣も奮闘して大いに盛り上がった戦いが続いたのではないのでしょうか。それにしても今年はまた一段とレベルが上がりましたよね。ゲ



ーム毎に決勝に残ることがいかに困難だったことか! その切磋琢磨がまた楽しかったりもするんですが、来シーズンもますますヒートアップしそうな予感もして、正直ちょっとしんどいですね (笑)。

なんかちょっと評論家っぽくなってきたんで、自分たちの話題に変えましょう。当初からの目標は常に楽しくプレイすること、DIZZYとゆふがいつも笑って走りまわられる場をつくってあげること、でした。そしてシーズン途中から、ゆふのシリーズチャンピオン&DIZZYの5回目のグラチャン出場を目指して戦ってきた中でも、その目標をほぼ達成できたことにとっても満足しています。さらに今年は、彼女たちが怪我をせずにシーズンを終えられたというおまけも付いて、言うことなしで感じます。

残念ながらDIZZY9歳でのファイナル出場はかないませんでした。Aコートシリーズ戦で走り回るお婆ちゃんとはとても輝いていました。今年1月、シリーズ第3戦@野田でのこと、1R目にデッドエンド×3+4投目縦場外という離れ技(?)をやったのけ、予選3位でゆふに押し出されたことも、今年一番鮮明に残った思い出となりました。

2年連続シリーズチャンピオンをかなえてくれたゆふに関しては出来すぎです。三本レイスター・ソゼチームとの長い長いマッチレースも、狸と狐のぼかし合い (知ってる人にはわかるはず・笑) も、最後の最後、涸沼&新津での大激戦も、ひとつひとつが楽しいフリスビードッグライフを満喫した1ページになりました。

そして最後に、陰で支えてくれたりびんや仲間たちと、ともに戦い、ともに喜び合い、ともに楽しんだ1年に乾杯!

来シーズンもまたみんなで Let's Enjoy FrisbeeDog!



次号会報Vol.9は、ジャパンファイナル表彰式典の様と各選手のインタビュー特集号を予定しております。

SKY DOG® SPORT

Vol.8

2004年 DECEMBER 発行

発行所 日本フリスビードッグ協会
〒951-8133 新潟県新潟市川岸町3丁目17番29号
TEL 025-234-2100
FAX 025-234-2101

ホームページ <http://www.frisbeedog.co.jp/>

印刷 新高速印刷株式会社

フリスビー®は米国WHAM-O社の登録商標です。
SKYDOG®は有限会社スカイボックスの登録商標です。



NAME: CH SANBAR
Best in Specialty Show; Multiple Group Winner
HANDLER: Amy Rodrigues
Owners: Polly West, Barbara Scott and Agnes Rodrigues
BREEDER: Polly West

「プロプラン」で育ち、 「プロプラン」で勝った。

2003年度・AKC年間ランキングで、
上位10頭のうち7頭が「プロプラン」。

※AKC(アメリカン・ケンネル・クラブ)のオール・ドッグショー・ランキング結果。



育て、伸ばし、勝つためのチカラを追求するプロのために、愛犬のライフプランを極限まで研究開発しているスーパープレミアムフード、「プロプラン」。アメリカの「ネスレ ピュリナ ペットケアセンター」での分子生物学、免疫学、臨床繁殖学などの最新研究成果に基づき、アメリカ本国で作られています。「プロプラン」の製品ラインは二つ。たん白質と脂肪の理想的な割合や栄養素を考えた「ライフステージライン」。肥満やアレルギーで悩む愛犬のケアのために、脂肪分・カロリー・原材料を特別に設計した「エクストラケライン」です。上質で新鮮な原材料を厳選、無着色・無香料の自然な味わい「プロプラン」。栄養が愛犬の体のすみずみに行き渡り、引き締まった理想的な体型づくりと健康で長生きな生活をサポートします。

チャンピオン犬を育てる、「ピュリナ プロプラン」



(子犬用) 1kg / 3kg / 8kg ・ (小型犬子犬用) 1kg / 3kg ・ (成犬用/チキン&ライス) 1kg / 3kg / 8kg ・ (成犬用/ラム&ライス) 1kg / 3kg / 8kg
(小型犬成犬用) 1kg / 3kg / 8kg ・ (シニア犬用) 1kg / 3kg / 8kg ・ (アクティブ犬用) 8kg ・ (ダイエット) 1kg / 3kg / 8kg ・ (センシティブ) 1kg / 3kg
プリーダーの皆さま用として、全アイテムとも17kgサイズがあります。